

北海道建設新聞

建築設備士、地位向上へ

札幌で北海道・東北ブロック会議

日本設備設計事務所協会

日本設備設計事務所協会の第21回北海道・東北ブロック会議と記念講演会が15日、京王プラザホテル札幌で開かれ、今後も建築設備士の地位向上に向け活動していくこと

を誓い合った。

最初に開催地の北海道設備設計事務所協会の種市由夫会長が「北海道、東北は台風の被害に見舞われている状況だが、この会議を有意義なものにしていきたい」とあいさつ。議事では、来賓の日本



今後の活動などについて確認した

設備設計事務所協会の西田能行会長が2017年5月を目指す連合会組織への移行について理解を求めたほか、今後の活動の方向性について説明した。現在、同協会が進める建築設備士事務所の自主登録制度について「なぜ自主登録が必要なのか」という声もあると思うが、建築設備士の地位向上のため協力してほしい」と呼び掛けた。

また、業務報酬の改善を図り、技術者育成につなげていきたいと話した。さらに、設備設計を意匠設計から分離発注する運動を進めていくことを確認した。

会議後の記念講演会では、南極料理人として知られる西村淳さんが南極地域観測隊として派遣された際の体験を紹介。コップの水を空中にまくと瞬時に凍り煙のようになる極寒の環境から「人の力、工夫する大切さを学んだ」と述べた。